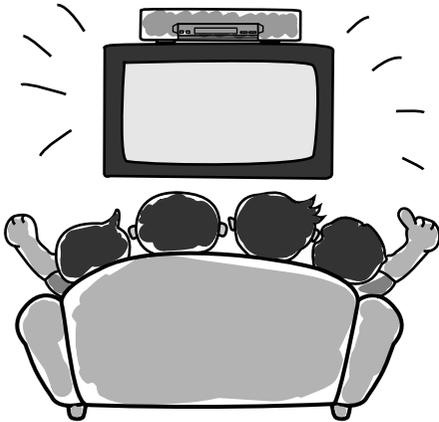
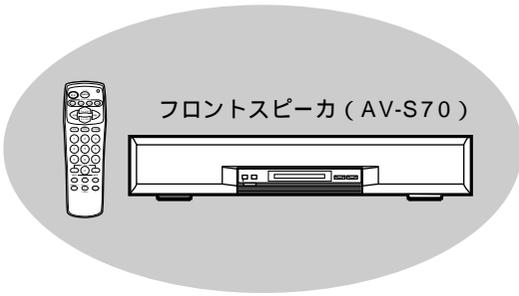




ナチュラルサウンドホームシアター
サウンドシステム

AV-S70

取扱説明書



このたびは、ヤマハナチュラルサウンドホームシアターサウンドシステムAV-S70をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございました。

AV-S70の優れた性能を十分に発揮させるとともに、未永くご愛用いただくために、この取扱説明書をご使用の前に、必ずお読みくださいますようお願いいたします。

お読みになったあとは、保証書とともに大切に保管してください。

特長	2
リモコンの準備	3
安全上のご注意	4
各部の名称	8

スピーカの置きかた	10	準備
取り付けかた	11	
接続のしかた	13	
テレビ・ビデオなどをつなぐ	14	
フロントスピーカとスーパーウーファをつなぐ	17	
電源コードの接続	17	
スピーカのレベル調節	18	

操作のしかた	20	操作
便利な機能を使う	21	
音場プログラムについて	22	
音場プログラムの種類	22	
音場プログラムを楽しむ	23	
メニュー機能の設定	24	

テレビ、ビデオを リモコンで操作する	26	リモコン
コードをプリセットする	26	
メーカーコード一覧表	29	
テレビを操作する	30	
ビデオデッキを操作する	31	

用語解説	32	その他
故障かなと思ったら	33	
仕様	34	
索引	35	
ヤマハホットライン サービスネットワーク	裏表紙	

特長

ホームシアターサウンド

テレビにフロントスピーカを接続するだけで、映画館で体験するような迫力と臨場感をお届けします。さらに別売のヤマハNX-SW70(スーパーウーファ1台、リアスピーカ2台)を加えて、重低音の迫力とサラウンド感をお楽しみいただくこともできます。

ドルビーデジタル*、ドルビープロロジック搭載

  マークのついたソフトの音場を再現します。

バーチャルサラウンド

  マークのついたソフトの再生では、フロントスピーカ1台で仮想ドルビーサラウンド音場が生まれます。音の移動感や臨場感豊かなサラウンド音に包まれたバーチャルサラウンドの世界をお楽しみください。

ヤマハシネマDSPなど7種類の音場プログラム

映画、コンサートからスポーツ観戦まで、いろいろなソースに迫力と臨場感を与える音場プログラムは、別売のヤマハNX-SW70を加えることで7種類にひろがります。

ユニバーサルリモコン

本機だけでなく、コードをプリセットするだけでヤマハ、他社を問わず他の機器もあわせて操作できます。本機とともによくお使いになるテレビやビデオ機器などのコードをプリセットすることをおすすめします。

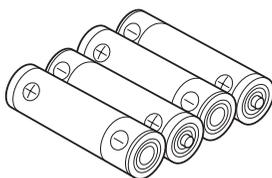
- * ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
「Dolby」, 「Pro Logic」, およびダブルD記号  は、ドルビーラボラトリーズの商標です。
非公開機密著作物。著作権1992-1997年ドルビーラボラトリーズ。不許複製。

付属品がすべてそろっているか、確認してください。

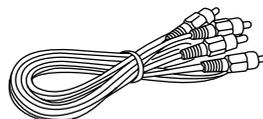
リモコン



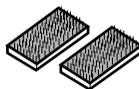
単4乾電池 4本



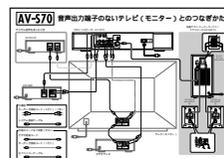
オーディオ接続コード(2ピン)
(3m:1本)



固定テープ(2セット)



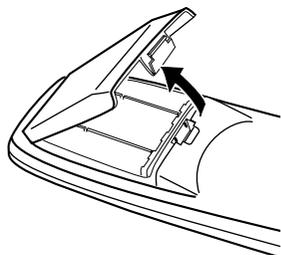
簡易接続図(1枚)



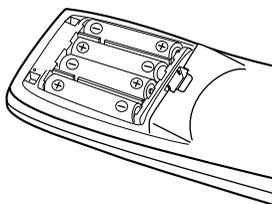
リモコンの準備

乾電池を入れる

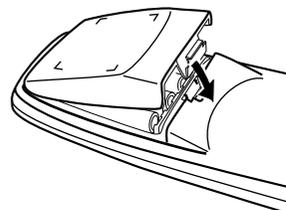
① 裏ぶたをはずす。



② 単4乾電池(4本)の⊕ ⊖を正しく入れる。



③ 裏ぶたを閉める。



乾電池のご注意

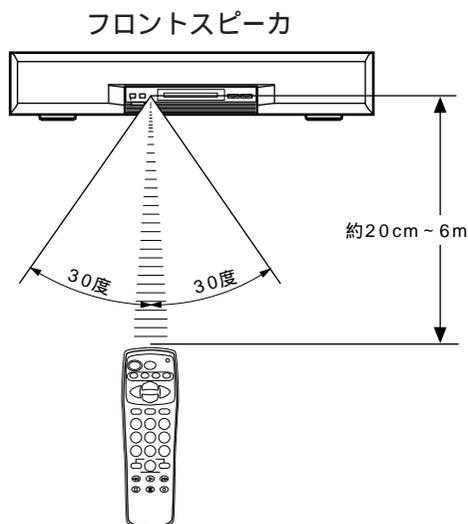
乾電池は誤った使いかたをすると、液もれが起きたり破れつすることがありますので、次の点に特に注意してください。

乾電池のプラス⊕とマイナス⊖の向きを電池ケースの表示通りに正しく入れてください。
新しい乾電池と一度使用した乾電池をまぜて使用しないでください。
種類のちがう乾電池をまぜて使用しないでください。同じ形状でも性能や電圧の異なるものがあります。

乾電池が使いえなくなったり、リモコンを長い間使わないときは、乾電池を全部取り出してください。充電式の乾電池はご使用になれません。液もれが起こったときは、ケースの中についた液をよくふき取ってください。

メーカーコードの保持について
乾電池は、使いえなくなる前に早めに交換してください。乾電池の寿命がなくなったり、乾電池を取り出した場合、お客様ご自身でプリセットされたメーカーコードは約2分間保持されますが、2分以上経過すると消える場合がありますのでご注意ください。

リモコンの使用範囲



乾電池の交換時期は
リモコン操作できる距離が短くなったときは、乾電池を4本とも交換してください。

リモコン取扱上の注意

フロントスピーカのリモコン受光窓とリモコンの間に障害物があると、操作できないことがあります。リモコンには衝撃を与えないでください。また、水にぬらしたり、湿度の高いところには置かないでください。

受信部に直射日光や強い照明(インバーター蛍光灯など)が当たっているとリモコンが働きにくくなります。照明または本体の向きを変えてください。他の機器のリモコンを同時に使うと、操作できないことがあります。

安全上のご注意

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

絵表示の例



記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。



分解禁止

⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。



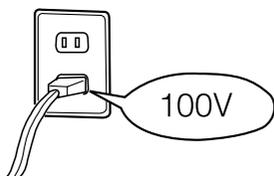
記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。



警告

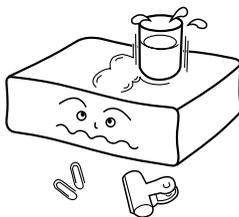
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- ⊘ 電源電圧交流100V以外の電圧で使用しない



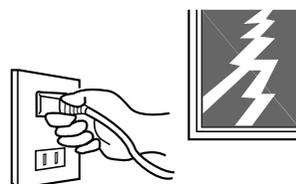
火災・感電の原因となります。本機を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。

- ⊘ 水を入れたり、ぬらさない



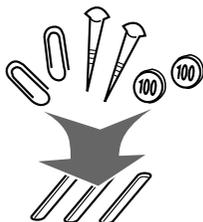
火災・感電の原因となります。本機の上に水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。

- ⊘ 雷が鳴っているときは、アンテナ線や電源プラグに触れない



感電の原因となります。

- ⊘ 通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしない



火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

- ⊘ 分解・改造を絶対しない
分解禁止 (キャビネットをはずすことも含む)



火災・感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

- ⊘ 供給電力を超える消費電力の機器を、電源供給コンセントに接続しない



火災の原因となります。接続機器の消費電力の合計が本機背面に表示されている供給電力を超えないようにしてください。また、供給電力内であっても電源を入れたときに大電流の流れる機器(電熱器具、ヘアドライヤー、電子レンジなど)は接続しないでください。

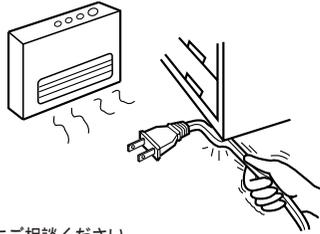


警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

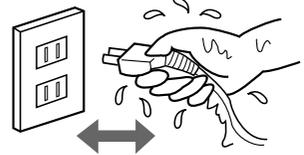
⊘ 電源コード・プラグを破損するようなことをしない

(傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる・ねじる、引っばる、束ねる、重いものをのせるなどしない)



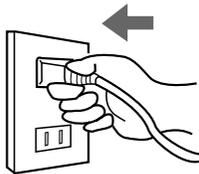
火災・感電の原因となります。
コードやプラグの修理は販売店にご相談ください。

⊘ 濡れた手で電源プラグの抜き差しをしない



感電の原因となります。

❗ 電源プラグは根元まで確実に差し込む



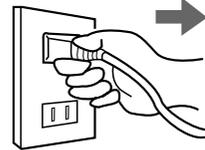
差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。
抜くときは必ずプラグを持ち、コードを引っばらないでください。
傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使わないでください。

❗ 電源プラグのほこりなどは定期的にとる



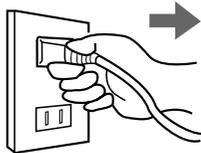
プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因となります。
電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

⚠ 機器の内部に水や異物が入った場合は、まず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く



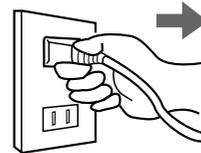
販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

⚠ 煙が出たり変なおいや音がしたら、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグを抜く また、電源プラグの抜き差しがしやすいコンセントに接続する



そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

⚠ 落としたりして本機を損傷した場合は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜く



そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

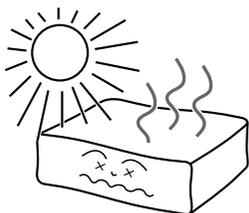
安全上のご注意



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

- ⊘ 直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に置かない



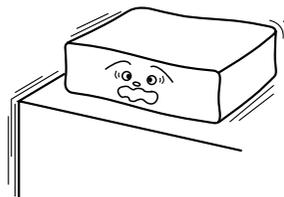
キャビネットや部品に悪い影響を与えたり、内部の温度が上昇し、火災の原因となります。

- ⊘ 湿気やほこりの多い場所に置かない



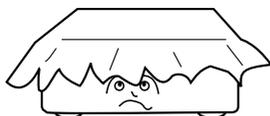
火災・感電の原因となります。

- ⊘ 振動のある場所、ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない



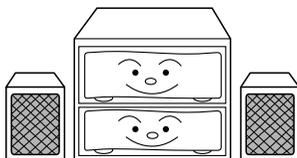
落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。

- ⊘ 通風孔をふさがない



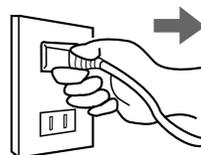
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となりますので、次の点に注意してください。
テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや、布団の上に置かないでください。
本機を押し入れ、本箱など風通しの悪い狭い所に押し込まないでください。

- ⚠ 放熱をよくするために他の機器との間は少し離して置く



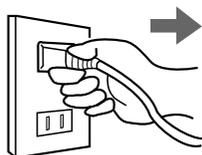
火災・故障の原因となります。ラックなどに入れるときは、本機の天面から10cm以上、背面から10cm以上のすきまを開けてください。

- 🔌 各機器を接続する場合は電源プラグを抜き、説明に従って接続する



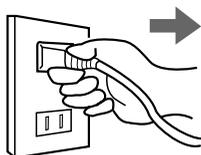
各々の機器の取扱説明書をよく読み、接続には指定のコードを使用してください。

- 🔌 移動するときは電源スイッチを切り、必ず電源プラグを抜き、外部の接続コードを外す



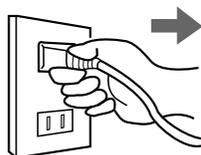
コードが傷つくと火災・感電の原因となります。

- 🔌 お手入れの際は、安全のため電源プラグを抜く



感電の原因となります。

- 🔌 長期間使わないときは、必ず電源プラグを抜く



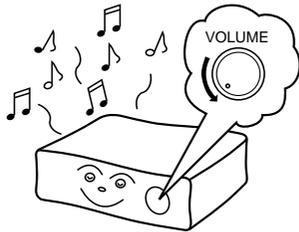
火災の原因となることがあります。



注意

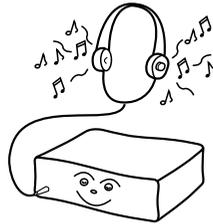
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

⚠ 電源を入れる前には音量を最小にする



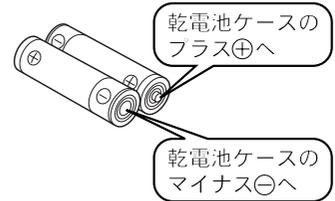
突然大きな音が出て聴力障害などの原因となります。

⊘ ヘッドホンを使うときは、音量を上げすぎない



大きな音で聞くと、聴力障害などの原因となります。

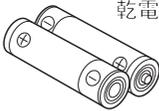
⚠ 付属のリモコンに電池を挿入する場合、極性表示(プラス⊕とマイナス⊖)通りに入れる



間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

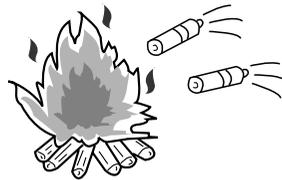
⊘ 指定以外の乾電池は使用しない

取扱説明書に記載されている乾電池を使用する



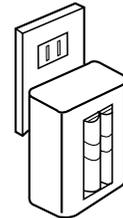
また、種類の違う乾電池、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となります。

⊘ 乾電池はショート、分解、加熱、火に入れるなどしない



発熱、液もれ、破裂などを起こし、けが、やけどの原因となります。

⊘ 乾電池は充電しない



液もれ、破損などを起こし、けが、やけどの原因となります。

⚠ アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。

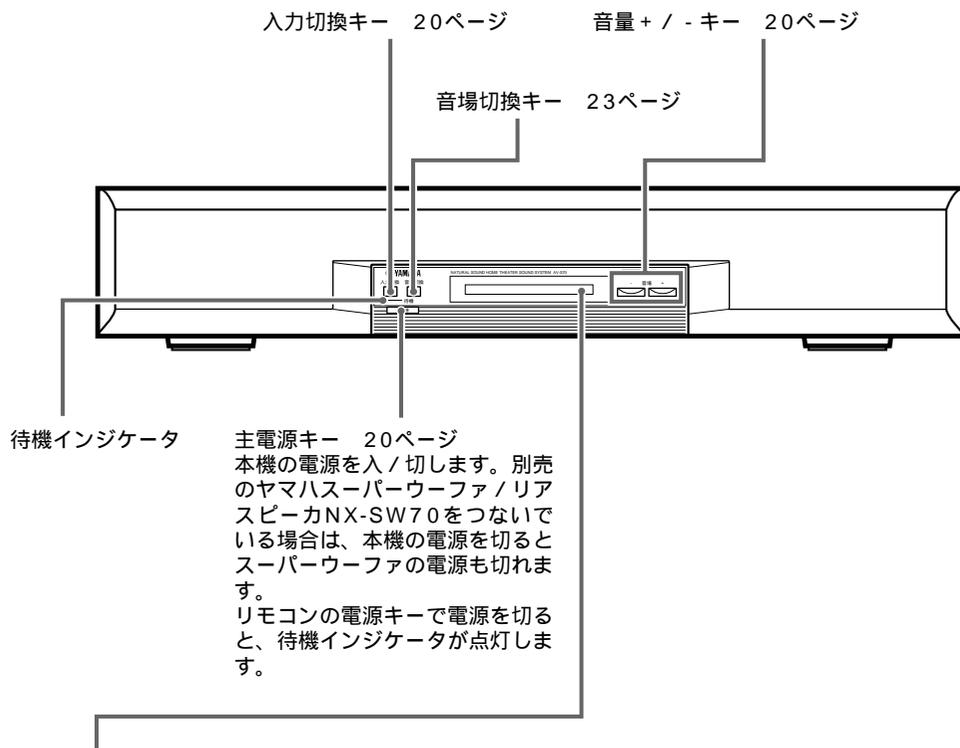
⚠ 1年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご相談ください。

本機の内部にほこりがたまったまま長い間掃除しないと、火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。

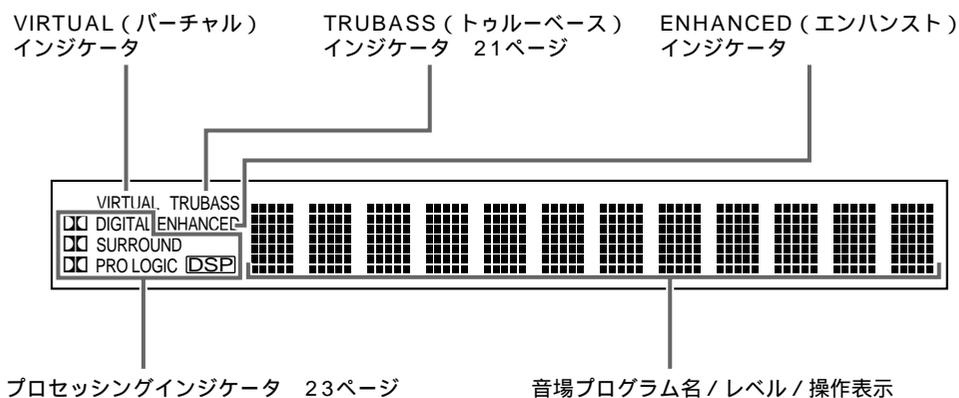
本機は音楽や映画などを再生する目的で設計されています。従って信号発生器やテストディスクの信号などを再生しますと、本機の故障の原因となるばかりではなく、スピーカーをいためる原因となることがあります。デジタルオーディオインターフェース規格は民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなくスピーカーをいためる原因となることがあります。

各部の名称

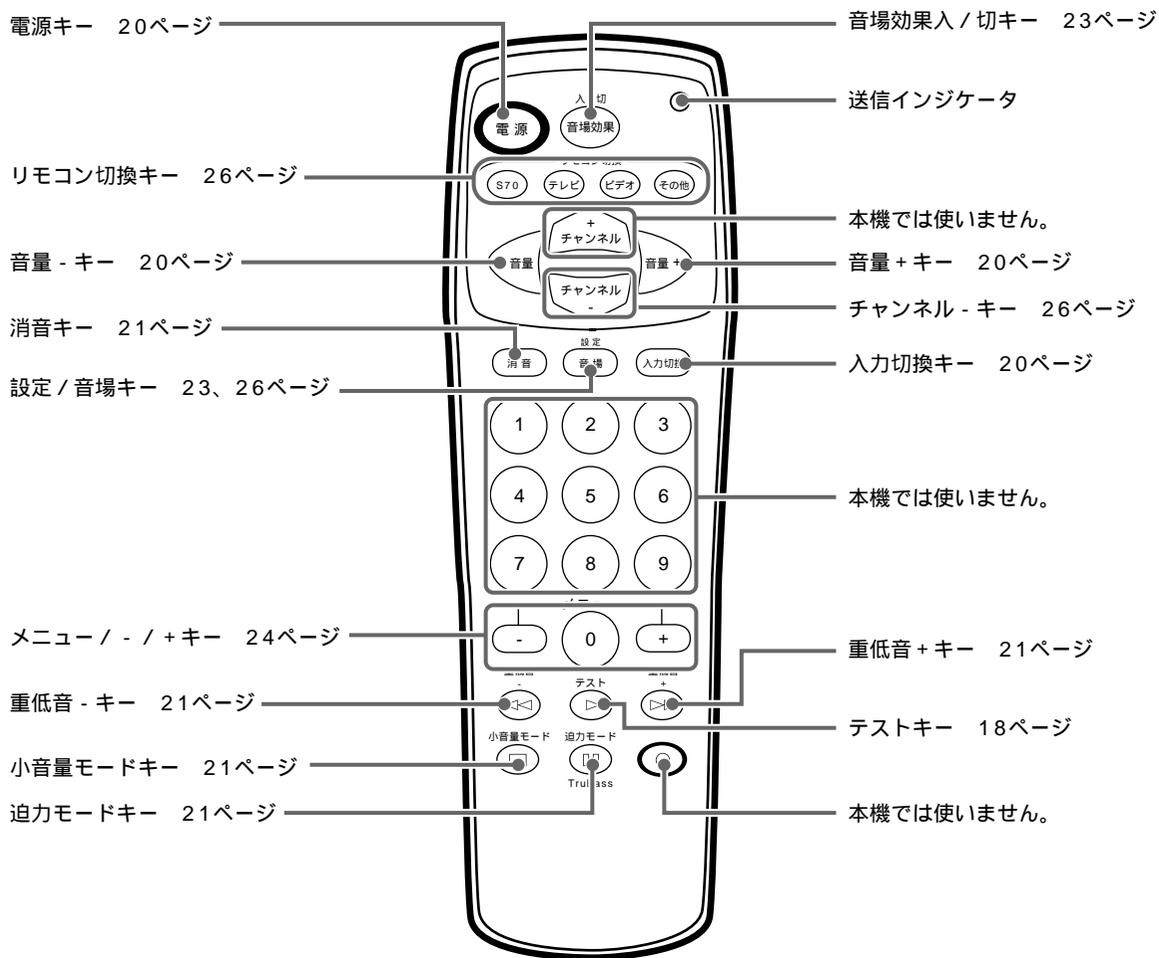
フロントスピーカ前面



表示窓



リモコン

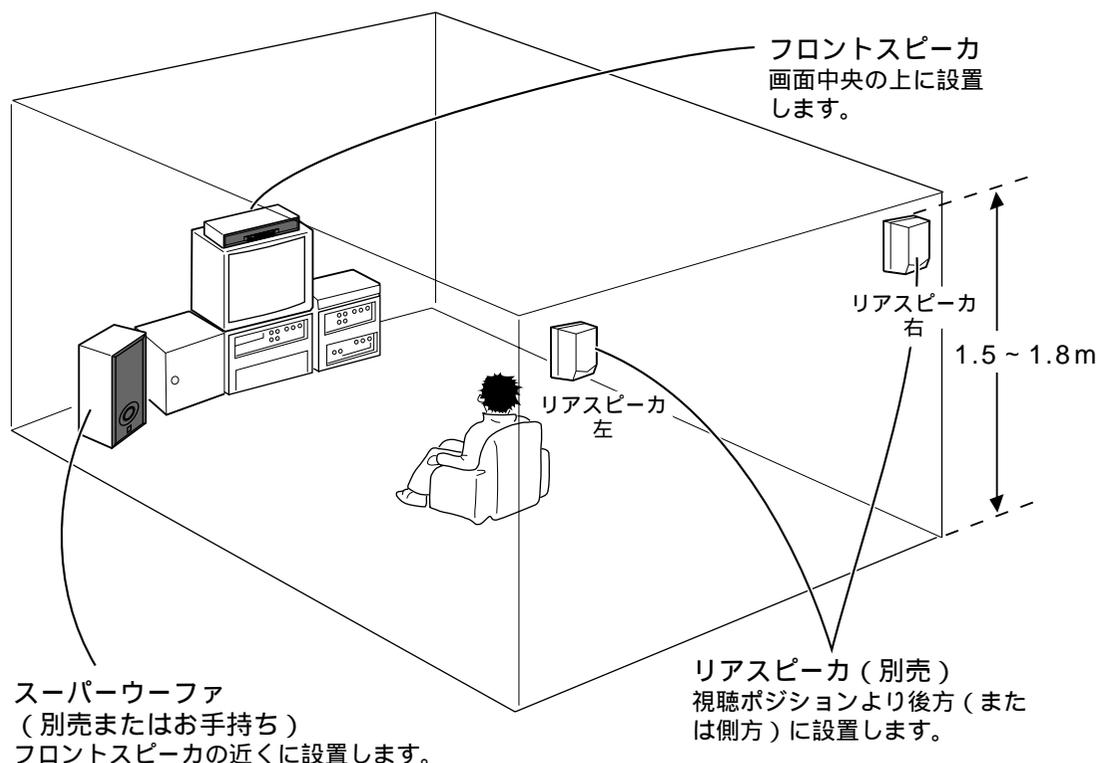


メモ

リモコンのキーのうち、本機の操作キーおよび本機とビデオデッキ兼用キーは濃い灰色に、それ以外のテレビ、ビデオデッキ操作のみに使うキーは淡い灰色に色分けされています。

スピーカの置きかた

スピーカは下図のような位置関係が理想ですが、厳密にそろわなくても十分な効果が得られます。



フロントスピーカ

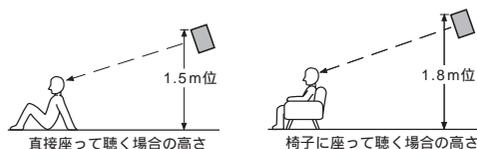
フロントスピーカはテレビ画面とスピーカの前縁をそろえ、テレビの上に取り付けます。取り付けかたについては11ページをご覧ください。

テレビの上に設置できないときは、テレビの下のラック内などできるだけテレビ画面の近くに設置してください。

別売のヤマハ リアスピーカ NX-AVS70

別売のヤマハ NX-AVS70は、お部屋の状況に合わせて棚に置いたり、壁に掛けることもできます。

スピーカの高さは、床に直接座って聴く場合床から1.5 m位、椅子に座って聴く場合1.8 m位が適当です。



別売のヤマハスーパーウーファ SW-AVS70またはお手持ちのスーパーウーファ

左右どちらかの外側で、壁の反射を防ぐため、少し内側に向けて置きます。低音の聴こえかたは、スーパーウーファを置く位置と聴く位置の両方に影響を受けますので、設置場所を変えてお試しください。

！ ご注意 ！

本機のスピーカは防磁タイプですが、テレビの上で使用したときにテレビ画面に色むらが起きる場合は、スピーカとテレビの位置を調整してください。

消磁機能のあるテレビをご使用の場合は、次のように対処してください。

1. テレビの電源を切る。
2. しばらくたってから、もう一度テレビの電源を入れる。

放熱を良くするために、サブウーファは上面20 cm、背面10 cm、側面10 cm以上の隙間を空けて設置してください。

取り付けかた

フロントスピーカの落下を防ぐため、テレビなどの上に置くときは、固定テープ(付属)でフロントスピーカを固定します。また、設置する場所に水平な面が少なく斜めになっているときは、フロントスピーカ背面の「高さ調節金具」を使います。

固定テープの使いかた

設置前のご注意

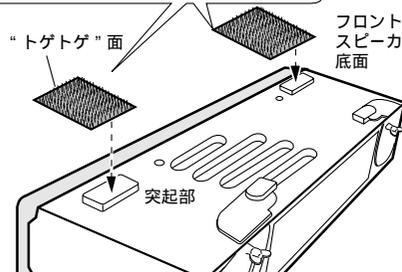
テープをはがした後、接着面には触れないでください。接着強度が弱くなります。

固定テープを貼る部分はきれいに拭いておいてください。ほこりや油、水などが付着していると、テープの接着強度が弱くなり、スピーカが落下する恐れがあります。

1

“トゲトゲ”面の固定テープのシールをはがし、フロントスピーカ底面の突起部にかぶせて貼る

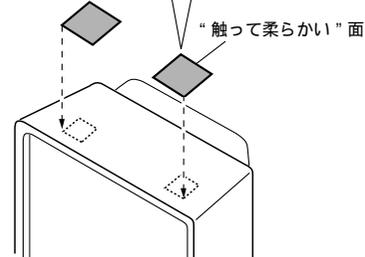
側面もピッタリ
貼りつけて、
しっかりくるんで
ください。



3

“触って柔らかい”面の固定テープのシールをはがし、設置位置に貼る

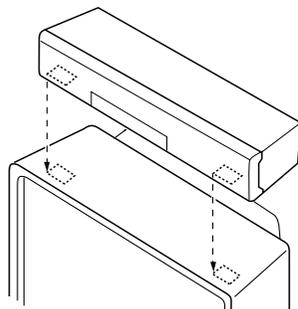
シールを
はがす



2

テレビの上など設置する場所にフロントスピーカを置き、“触って柔らかい”面の固定テープを貼る位置(設置位置)を決める

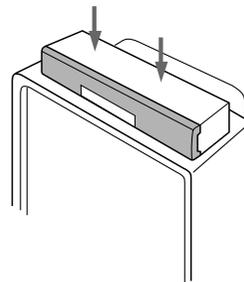
フロントスピーカに貼ったマジックテープとテレビ上面に貼るマジックテープがずれないように位置を決める。



4

固定テープの両面を合わせ、フロントスピーカの上からしっかりと押さえる

上から押さえる。



！ご注意！

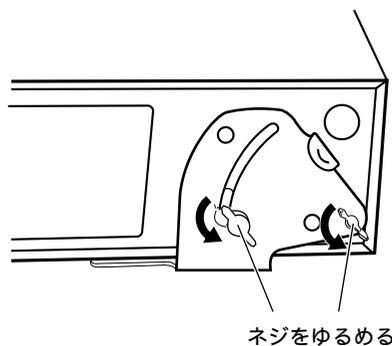
フロントスピーカを一度固定したあとで固定テープをはがすと、テレビなどの設置面の塗装がはがれることがあります。設置位置は十分確認したうえで固定テープを貼ってください。

取り付けかた

高さ調節金具の使いかた

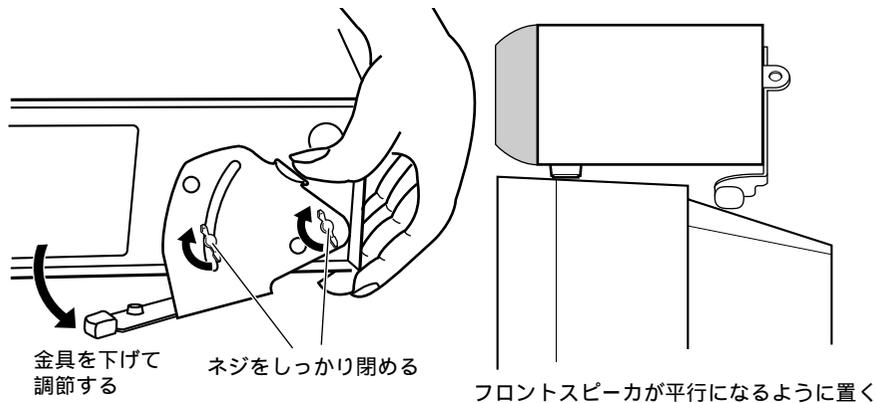
1

調節金具のネジをゆるめる

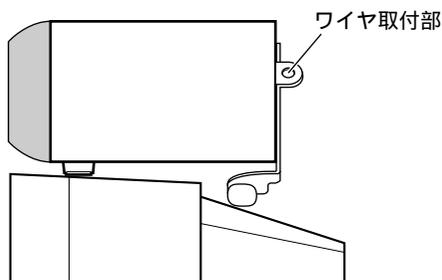


2

フロントスピーカが水平になるように金具を下げ調整し、ネジをしっかりしめる



落下防止をさらに強固にするには



調節金具についているワイヤ取付け部に十分強度のあるワイヤを通し、壁にしっかり固定してください。固定テープに加えて二重の落下防止となります。フロントスピーカの落下による思わぬ事故を防ぐことができます。

ワイヤは別途ご用意ください。

❗ ご注意 ❗

本機の上には絶対に何も置かないでください。

接続のしかた

正しい接続のために

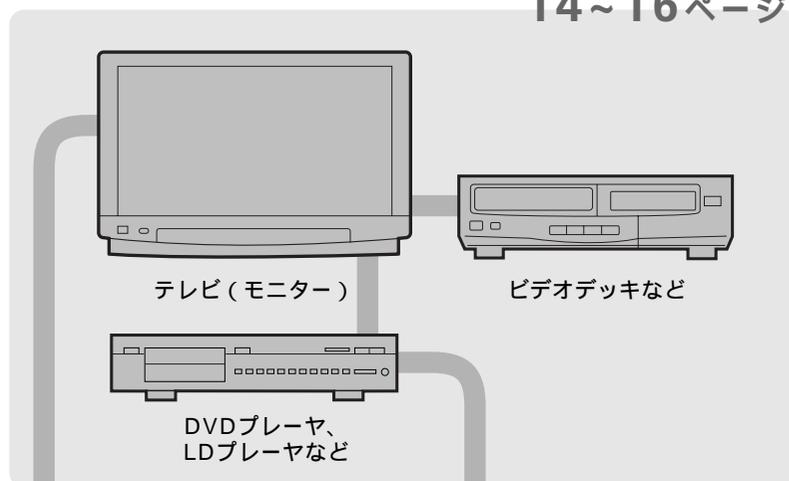
接続の際は、必ず本機および接続する機器の電源を切ってください。

音声信号の左/L端子(白)には接続コードの白のプラグを、右/R端子(赤)には赤のプラグを接続します。プラグは、しっかり差し込んでください。しっかり差し込まれていないと音が出なかったり雑音の原因となります。

接続する機器によっては接続方法や端子名が異なることがありますので、それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

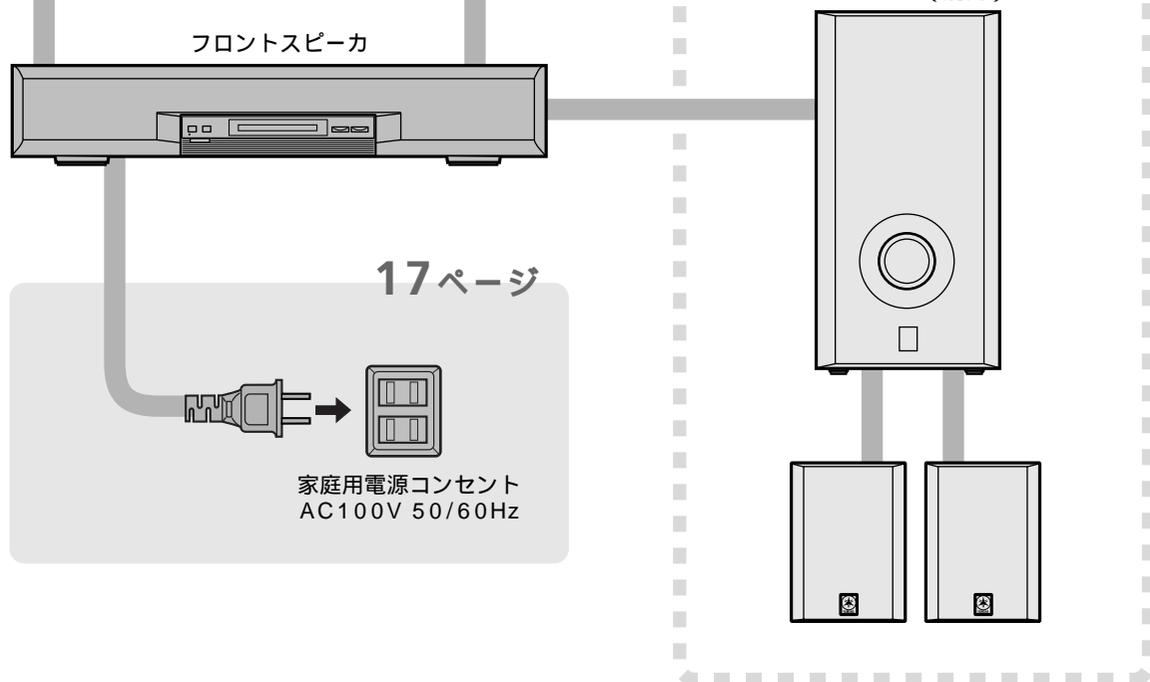
接続が終わったら正しく配線されているか、もう一度お確かめください。

14~16ページ



17ページ

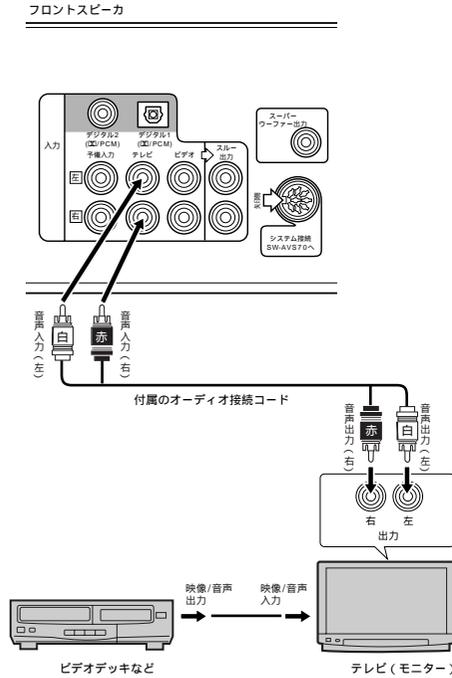
ヤマハ スーパーウーファ/リアスピーカ
NX-SW70 (別売)



接続のしかた

テレビ・ビデオなどをつなぐ

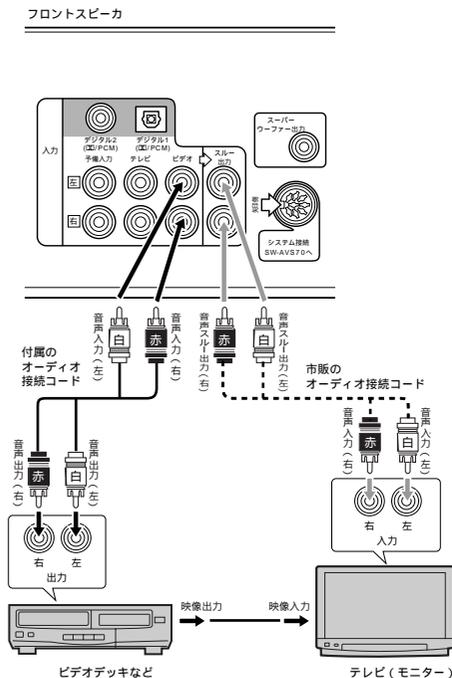
音声出力端子のあるテレビ（モニター）とのつなぎかた



付属のオーディオ接続コードを使って、テレビ（モニター）の音声出力端子とフロントスピーカのテレビ端子を接続します。

テレビからの音声はフロントスピーカから聞こえます。（テレビのスピーカからも聞こえますが、本機の効果を十分に楽しむためにはテレビの音量をしばることをおすすめします。）フロントスピーカの電源を切ると、音声はテレビのスピーカから聞こえます。

音声出力端子のないテレビ（モニター）とのつなぎかた



ビデオ端子だけを接続する方法と、ビデオ端子に加えてスルー出力端子を接続する方法があります。付属のオーディオ接続コードを使って、ビデオデッキの音声出力端子とフロントスピーカのビデオ端子を接続します。

ビデオ端子に加えてスルー出力端子を接続する場合は、市販のオーディオ接続コードを使って、フロントスピーカのスルー出力端子とテレビ（モニター）の音声入力端子を接続します。

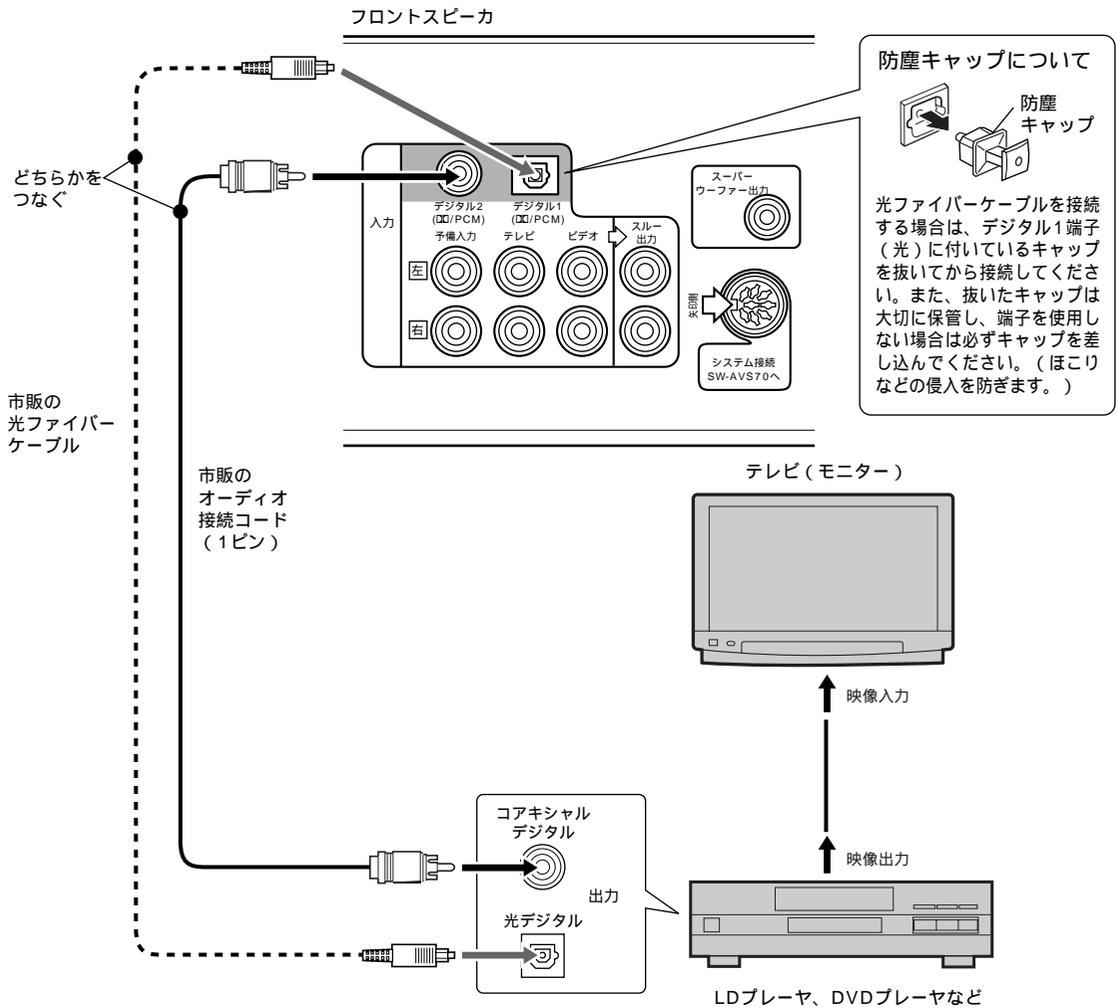
ビデオ端子だけを接続すると：

ビデオデッキの音声は、いつもフロントスピーカから聞くことになります。フロントスピーカの電源を切ると音声は聞こえません。（テレビのスピーカからも聞こえません。）

ビデオ端子に加えてスルー出力端子を接続すると：フロントスピーカの電源を入れたら、ビデオデッキの音声はフロントスピーカから聞こえます。フロントスピーカの電源を切ると、音声はテレビのスピーカから聞こえます。

接続のしかた

デジタル音声を楽しむための、テレビ（モニター）とのつなぎかた



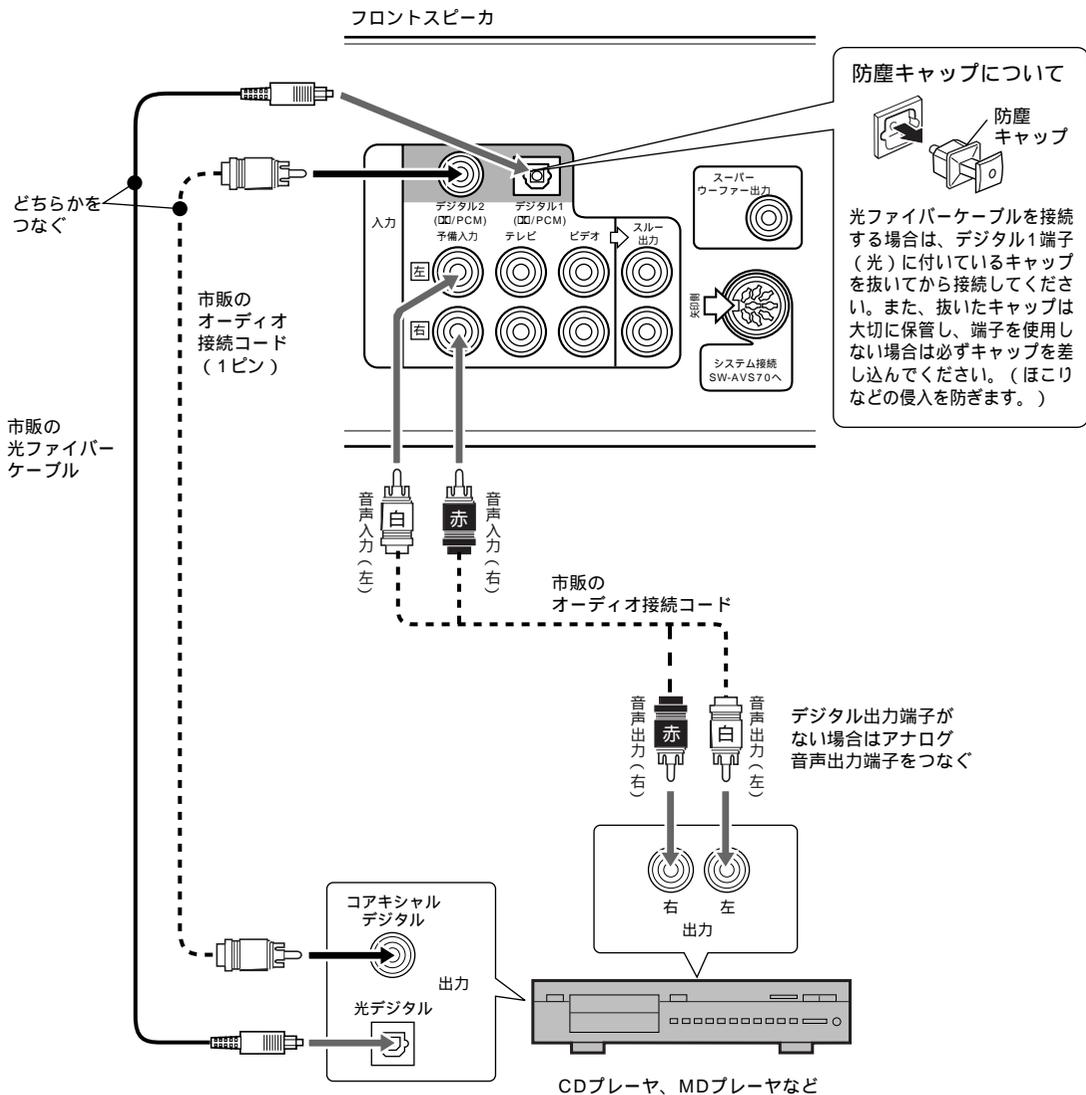
LDプレーヤ、DVDプレーヤなどのデジタル出力端子とフロントスピーカのデジタル1または2入力端子をつなぐと、デジタル音声をお楽しみいただけます。

市販の光ファイバークーブルまたはオーディオ接続コード（1ピン）を使って、LDプレーヤなどの光端子またはコアキシャル端子とフロントスピーカのデジタル1端子（光 またはデジタル2 端子（コアキシャル））を接続します。

LDプレーヤ、DVDプレーヤなどの音声はフロントスピーカから聞こえ、テレビのスピーカからは聞こえません。フロントスピーカの電源を切るとLDプレーヤなどの音声は聞こえません。

接続のしかた

CDプレーヤ、MDプレーヤなどのつなぎかた



CDプレーヤ、MDプレーヤなどにデジタル出力端子がある場合は、市販の光ファイバケーブルまたはオーディオ接続コード(1ピン)を使って、CDプレーヤ、MDプレーヤなどの光端子またはコアキシャル端子とフロントスピーカのデジタル1端子(光)またはデジタル2端子(コアキシャル)を接続します。デジタル出力端子がない場合は、市販のオーディオ接続コード(2ピン)を使ってCDプレーヤ、MDプレーヤのアナログ音声出力端子とフロントスピーカの予備入力端子を接続します。

スピーカのレベル調節

ドルビーサラウンドソースをDOLBY PRO LOGICやDOLBY DIGITAL ENHANCEDなどの音場で再生するとき、これらの音場効果を十分に発揮させるには各チャンネルの音量(出力レベル)が同じになるように調節する必要があります。また、他の音場プログラムで再生するときも、それぞれの音場の持ち味を引き出すことができます。フロントスピーカのみのときは、リアバーチャル左右チャンネルの音量がメイン左右チャンネルと同じになるように調節します。(リアバーチャルの音は仮想的なもので、後方にリアスピーカがあるかのように聞こえます。)

NX-SW70をつないでいるときは、センターチャンネル(フロントスピ - カ内蔵)およびリアチャンネル(NX-SW70のリアスピーカ)の音量がメイン左右チャンネル(フロントスピ - カ内蔵)と同じになるように調節します。

再生の前に次の手順にしたがって、スピーカレベルの調節を行ってください。

1

電源キーを押して電源を入れる

待機インジケータが点灯しているときは、リモコンの電源キーで電源が入りますが、主電源が切れているとき(待機インジケータが消えているとき)は、本体の主電源キーを押して電源を入れます。

2

テストキーを押す

テストトーンが次の順序で聞こえます。

テスト

バーチャルモードまたは
フロントスピーカのみ
のとき:

NX-SW70をつないだとき:

3

音量 + または - キーでテストトーンの音量を調節する(通常お聞きになる音量にします)

小さくなる

- 音量

音量 +

大きくなる

音量 + キーを押すと音が大きくなり、- キーを押すと小さくなります。

スピーカのレベル調節

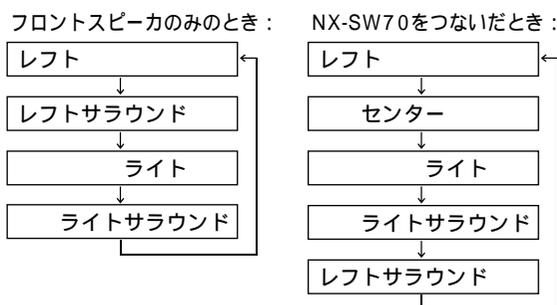


4

テストトーンを聞きながら各チャンネルのレベルを調節する

メイン左右チャンネルを調節する	メイン左または右チャンネルからテストトーンが出ているとき	大きくするには
センターチャンネルを調節する (NX-SW70をつないだとき)	センターチャンネルからテストトーンが出ているとき	小さくするには
リア左右チャンネルまたはリアパーチャル左右チャンネルを調節する	リア左または右チャンネルからテストトーンが出ているとき	

テストトーンが出ているときの各チャンネル表示



フロントスピーカのみときは、リアパーチャル左右チャンネルの音量がメイン左右チャンネルと同じになるように調節します。

NX-SW70をつないでいるときは、センターチャンネルおよびリアチャンネルの音量がメイン左右チャンネルと同じになるように調節します。

左右メインチャンネルを調節した場合は、センターおよび左右リアチャンネル、またはリアパーチャルチャンネルの音量をもう一度調節してください。

リアパーチャルチャンネルは左右別々に調節できません。片方のチャンネルを調節するともう一方のチャンネルも同じレベルになります。

メモ

音量は次の範囲で調節できます。

フロントスピーカのみとき

左右メインチャンネル： - 10 ~ ± 0dB

リアパーチャルチャンネル： - 3 ~ + 3dB

メインチャンネルは - 10dBで、リアパーチャルチャンネルは - 3dBで音量が最小になります。

NX-SW70をつないだとき

左右メインチャンネル： - 10 ~ ± 0dB

センターチャンネル： - 20 ~ + 3dB

左右リアチャンネル： - 20 ~ + 6dB

メインチャンネルは - 10dBで、リアチャンネルは - 20dBで音量が最小になります。

5

テストキーを押す



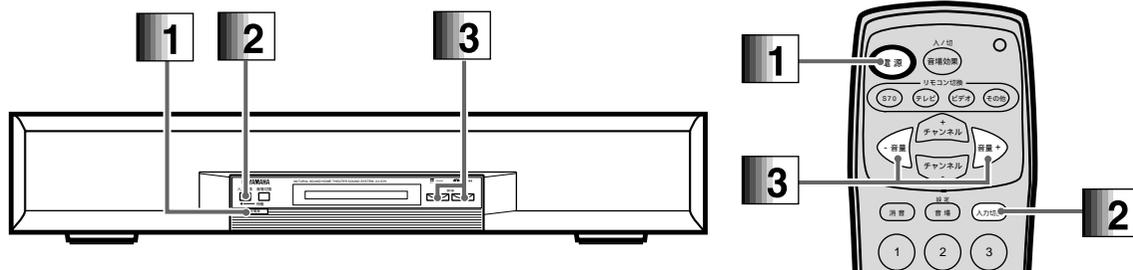
テストトーンが消えます。

操作のしかた

ホームシアターサウンドシステムを楽しむ

ここでは、テレビ、ビデオデッキ、DVD、LD、CD、MDなどの音声をホームシアターサウンドシステムAV-S70で楽しむための入力切り換え、音量調節について説明します。

あらかじめ再生する機器およびテレビの電源を入れてから、次の手順にしたがって操作してください。



1 電源キーを押して電源を入れる

《本体》



《リモコン》



待機インジケータが点灯しているときは、リモコンの電源キーで電源が入ります。主電源が切れているとき（待機インジケータが消えているとき）は、本体の主電源キーを押して電源を入れます。

2 入力切換キーを押す

《本体》



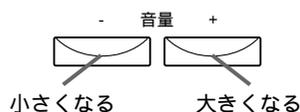
《リモコン》



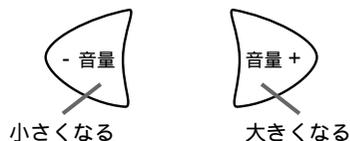
押すたびにビデオ テレビ 予備入力 デジタル1 デジタル2の順序で切り換わります。

3 音量 + または - キーで音量を調節する

《本体》

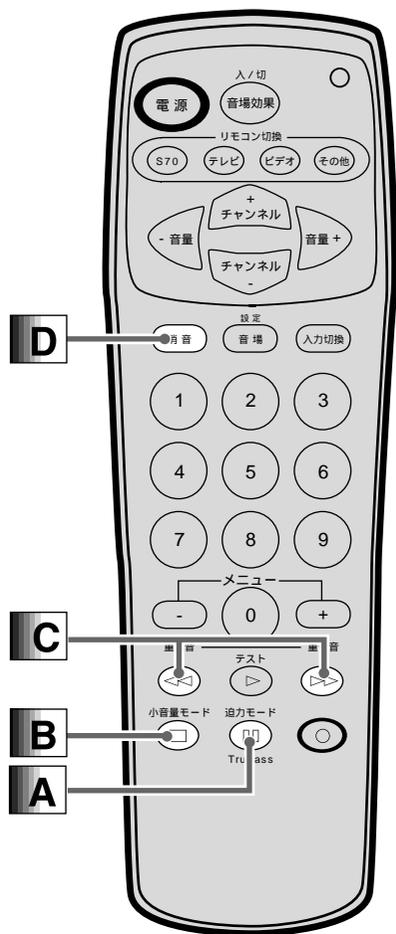


《リモコン》



音量 + キーを押すと音が大きくなり、- キーを押すと小さくなります。

便利な機能を使う



再生中に使える便利な機能

A 中低音の迫力をアップする

迫力モードキーを押します。



表示窓のTRUBASS*が点灯します。
中低音のレベルが上がリ、セリフや歌の声に厚みが生
まれます。

迫力モードをやめるには：
迫力モードキーをもう一度押します。

* (●)TruBass™

TruBassと(●)記号は米国と選択された諸外国におけるSRS Labs, inc.の商標です。TruBass技術はSRS Labs, inc.からのライセンスにより製品化されています。

B 小さな音量でもメリハリのきいた音で楽しむ

小音量モードキーを押します。



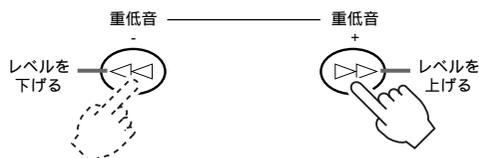
音がよりクリアに聞こえます。
夜間など、大きな音量を出しにくいときにお使いくだ
さい。

小音量モードをやめるには：
小音量モードキーをもう一度押します。

このキーでは音量を小さくできません。
音量を小さくするには音量-キーを押してください。

C スーパーウーファのレベルを調節する

スーパーウーファをつないでいる場合は、レベル
を調節することができます。
レベルを上げるには重低音+キーを、下げるには
重低音-キーを押します。



調節できるレベルの範囲は - 20dBから + 10dB
です。

D 一時的に音を消す

消音キーを押します。



音を消しているあいだは、“ミュート オン”が表示さ
れます。

もとの音量に戻すには：
もう一度消音キーを押します。

音場プログラムについて

7種類の音場プログラムの中から再生するソースに合ったプログラムを選ぶだけで、映画館やコンサートホールで体験するような臨場感を味わうことができます。ドルビーデジタル、ドルビープロロジックやヤマハCINEMA DSP(デジタルサウンドフィールドプロセッサー)の世界をお楽しみください。

音場プログラムの種類

フロントスピーカだけを接続している場合

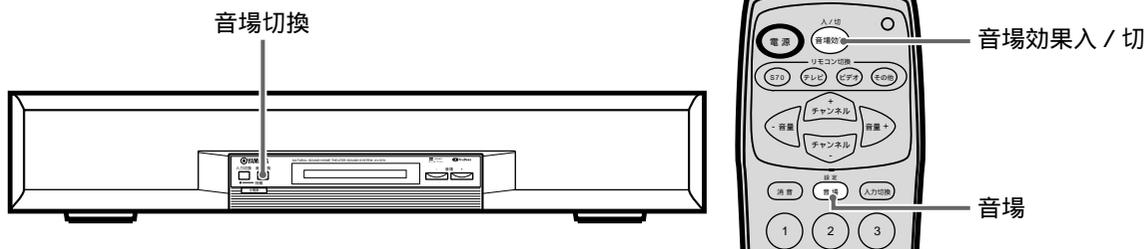
No.	プログラム名	特長および最適ソース
1	バーチャルサラウンド (ドルビーデジタル、ドルビープロロジック入力するとき)	フロントスピーカ1台で、ドルビーデジタル、ドルビープロロジックに迫る仮想サラウンド音場を楽しめます。
7	モノムービー	古いモノラル名作映画専用のポジションです。

フロントスピーカおよび別売ヤマハスーパーウーファノリアスピーカNX-SW70を接続している場合

No.	プログラム名	特長および最適ソース
1	バーチャルサラウンド (ドルビーデジタル、ドルビープロロジック入力するとき)	フロントスピーカ1台で、ドルビーデジタル、ドルビープロロジックに迫る仮想サラウンド音場を楽しめます。
2	ドルビーデジタル (ドルビーデジタル入力するとき) ドルビープロロジック	ドルビーデジタルまたはドルビープロロジックデコーダーで正確に処理されたムービーサウンドをストレートに再生します。
3	ドルビーデジタルエンハンスト (ドルビーデジタル入力するとき) ドルビープロロジックエンハンスト	ドルビーデジタルまたはドルビープロロジックのサラウンド信号にDSP処理を行い、音場効果を付加します。
4	デジタルムービーシアター (ドルビーデジタル入力するとき) 70mmムービーシアター (ドルビープロロジック入力するとき)	最新の映画のサウンドデザインをセリフと効果音に描き分け、映画館の臨場感あふれるサウンドを実現します。
5	コンサート	ヨーロッパに多くみられる、クラシックなコンサートホールの雰囲気をも再現します。オペラなどの再生に最適です。
6	スポーツ	バラエティーや中継番組など、適用範囲の広い音場効果。残響音を比較的抑えているので、長時間使用しても違和感がありません。
7	モノムービー	古いモノラル名作映画専用のポジションです。音場効果と適度な残響処理により、モノラル音声豊かな響きでよみがえります。

音場プログラムについて

音場プログラムを楽しむ



音場切換キー（本体）または音場キー（リモコン）を押します。

《本体》

音場切換



《リモコン》

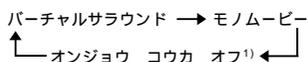
設定

音場

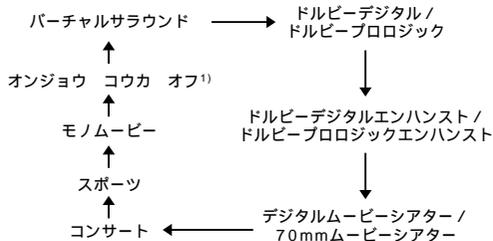


キーを押すごとに、音場プログラムが次のように切り換わり、いま選んでいる音場プログラムが表示されます。

フロントスピーカだけを接続している場合



フロントスピーカおよび別売ヤマハスーパーウーファ/リアスピーカNX-SW70を接続している場合



1) 本体の音場切換キーでのみ、「オンジョウ コウカ オフ」を経由します。

お聴きになるソース（音源）の雰囲気にあった音場プログラムを選んでください。

入力ソース（予備入力/テレビ/ビデオ/デジタル1/デジタル2）ごとに、最後に使用していた音場プログラムがメモリーされるので、入力を切りかえるごとに音場プログラムも自動的に切り換わります。

音場効果を切るには（リモコンの場合）

音場効果入/切キーを押します。

音場効果を切ると通常ステレオ再生になり、「オンジョウ コウカ オフ」と表示されます。

もう一度押すと音場効果がかかります。

プロセッシングインジケータについて

音場効果をかけて再生すると、入力信号の種類によってプロセッシングインジケータが点灯します。

□□ DIGITAL : 2チャンネル以外でエンコードされたドルビーデジタル信号を再生すると点灯します。

SURROUND : パーチャルサラウンド再生のときに点灯します。

□□ PRO LOGIC : 音場プログラムNo. 2、3で再生しているとき、2チャンネルでエンコードされたドルビーデジタル信号、PCM信号、アナログ信号を再生すると点灯します。

DSP : 音場プログラムNo. 3～7で再生しているとき点灯します。

パーチャルサラウンド、ドルビーデジタル/ドルビープロロジック、ドルビーデジタルエンハンスト/ドルビープロロジックエンハンスト、デジタルムービーシアター/70mmムービーシアターは、ビジュアルソフト

DOLBY DIGITAL DOLBY SURROUND と表示されているドルビーエンコード*ソースの再生に最適なプログラムです。実測された音場データを採用しているためソースによっては左右メインチャンネルの音量が異なる場合があります。（ドルビーデジタルを除く）

音場プログラムは名前にこだわらず、聴感上最も気に入ったものを選択してください。また、実際に聴くときは、プログラムの音場にリスニングルーム自体の音場が付加されます。プログラムの音場を楽しむには、リスニングルームをできるだけデッドに（反射音が無いように）調整しましょう。

メモ

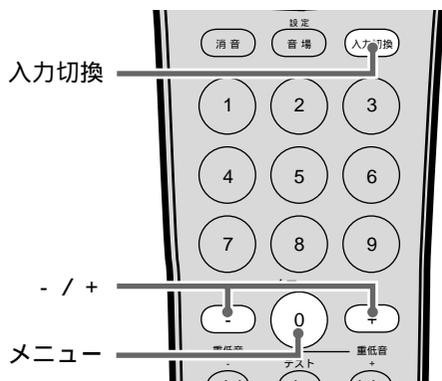
パーチャルサラウンドの音場プログラムで再生する場合、パーチャルサラウンド効果を最大限に発揮させるには、テレビの音量を絞ってください。

*マークのついている言葉は、用語集（32ページ）で説明しています。

メニュー機能の設定

メニュー機能には、オートパワーオン/オフを設定する「オートパワー」、表示窓の明るさを調節する「ディマー」、入力に名前をつける「インプットネーム」、サウンド音の遅延時間を調節する「ディレイタイム」、日本語/英語表示を切り換える「ニホンゴ/エイゴ」があります。

メニューキーを押すたびに、「オートパワー」「ディマー」「インプットネーム」「ディレイタイム(音場プログラムのドルビーデジタル/ドルビープロロジック、ドルビーデジタルエンハンスト/ドルビープロロジックエンハンストを選んでいるときのみ)」「ニホンゴ/エイゴ」入力表示、の順で切り換わります。



オートパワーオン/オフを設定する

オートパワーオンとは次の動作のことをいいます。

入力信号が無く、しかもキーを操作しない状態で30分続く

自動的に電源が切れるオートパワーオフ
(待機インジケータがゆっくり点滅する)

次に信号が入力されたときに自動的に電源が入る
オートパワーオン
(またはリモコンの電源キーで電源を入れ直す)

オートパワーの感度の設定と、オ - トパワ - 機能をオフにする設定が選べます。

- 1 メニューキーを押して「オートパワー」を表示させます。



- 2 オートパワーオンに設定するとき: 「オートパワー2」を+または-キーで選びます。
オートパワーをオフに設定するとき: 「オフ」を+または-キーで選びます。



接続する機器の信号出力レベルによっては、オートパワー機能がうまく動作しないことがあります。このような場合は、下の表を参考にしてオートパワーの感度を変更してください。

+キーを押すと の順に、-キーを押すと の順に選べます。

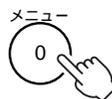
表示	設定内容/症状
オフ	オ - トパワ - 機能を使用しない
1	信号が入ってもオートパワーオンがはたらかない、または信号が入っているのにオートパワーオフになってしまう場合
2	オートパワー機能を使用する場合の通常の設定
3	信号が入らなくてもオートパワーオンになってしまう、または信号が入らないのにオートパワーオフにならない場合

メニューから抜けるには
入力表示に戻るまで、メニューキーを何回か押します。

表示窓の明るさを調節する

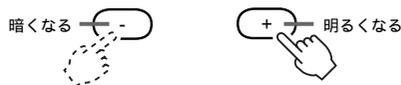
フロントスピーカの表示窓の明るさを調節できます。

- 1 メニューキーを押して「ディマー」を表示させます。



現在設定されている明るさが(ディマー: ±0など)表示されます。

- 2 - または+キーを押して調節します。
-キーを押すと暗くなり、+キーを押すと明るくなります。



-3(いちばん暗い)から+3(いちばん明るい)まで調節できます。

メニューから抜けるには
入力表示に戻るまで、メニューキーを何回か押します。

メニュー機能の設定

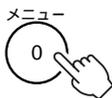
入力に名前をつける

予備入力、デジタル1およびデジタル2に名前をつけることができます。(テレビ、ビデオの入力名は変えることができません。)

どの入力端子に何の機器をつないでいるかがすぐわかるような名前をつけると、入力を選ぶときに便利です。

たとえば、予備入力端子にMDをつないでいるときは「MD」、デジタル1端子にDVDをつないでいるときは「DVD」などを選ぶと良いでしょう。

- 1 メニューキーを押して「インプットネーム」を表示させます。



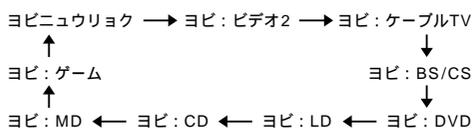
- 2 入力切替キーを押して、名前をつける入力(予備入力、デジタル1または2)を選びます。



- 3 - または + キーを押して名前を選びます。



手順2で予備入力を選んだときは、+ キーを押すと次の順で名前が表示されます。



手順2でデジタル1または2を選んだときは、+ キーを押すと次の順で名前が表示されます。



デジタル1のときは「D1:」が、デジタル2のときは「D2:」が名前の前に表示されます。

- キーを押すと逆順で名前が表示されます。

手順1～3を繰り返して予備入力、デジタル1およびデジタル2に名前をつけることができます。

メニューから抜けるには
入力表示に戻るまで、メニューキーを何回か押します。

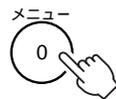
❗ ご注意 ❗

CDやMDは音の強さの変化範囲が広がっています。小さな音から大きな音に急激に変化する音楽などを大きな音量(最大レベル付近)で長時間再生すると、スピーカを破損する恐れがあります。

ディレイタイムを調節する

音場プログラムがドルビーデジタル/ドルビープロロジック、ドルビーデジタルエンハンスト/ドルビープロロジックエンハンストのとき、ディレイタイム(メインチャンネルの音が聞こえてからサラウンド音が聞こえるまでの時間)を調節できます。ドルビーデジタルまたはドルビープロロジック入力別に設定できますが、ドルビーデジタル(またはドルビープロロジック)を調節するとドルビープロロジック(またはドルビーデジタル)のレベルも連動して上下します。ディレイタイムを長めに設定すると、音場空間が大きく感じられ、短めに設定すると小さく感じられます。

- 1 メニューキーを押して「ディレイタイム」を表示させます。



- 2 - または + キーを押してディレイタイムを調節します。



調節できる範囲

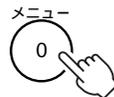
ドルビーデジタル入力のとき: 0 ~ +15 ms

ドルビープロロジック入力のとき: 15 ~ 30 ms

メニューから抜けるには
入力表示に戻るまで、メニューキーを何回か押します。

日本語 / 英語表示を切り換える

- 1 メニューキーを押して「ニホンゴ / エイゴ」を表示させます。



「ニホンゴ センタク」が表示されます。

- 2 英語表示にするには、- または + キーで「English Sel.」を選び、日本語表示にするには、「ニホンゴ センタク」を選びます。



- または + キーを押すたびに「English Sel.」と「ニホンゴ センタク」が切り換わります。

メニューから抜けるには
入力表示に戻るまで、メニューキーを何回か押します。

テレビ、ビデオをリモコンで操作する

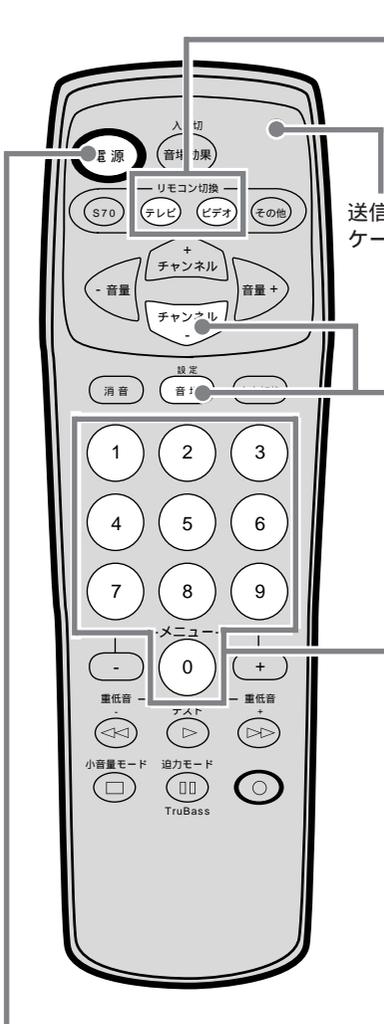
お使いのテレビやビデオのメーカーコードをプリセットすると、本機とあわせてお使いになる機器をリモコン操作することができます。プリセットには、マニュアルプリセットとオートプリセットがあります。

！ ご注意 ！

他社のメーカーコードをプリセットしても、機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。この場合は各機器専用のリモコンをお使いください。

コードをプリセットする

マニュアルプリセットのしかた



1 メーカーコードをプリセットするリモコン切替キー（テレビまたはビデオ）を押す

（テレビ） （ビデオ）

S70キーには本機を操作するための信号がすでにプリセットされているので、テレビおよびビデオキーにのみメーカーコードをプリセットできます。1つのキーに1つのメーカーコードがプリセットできます。

2 設定キーを押しながら送信インジケータが点灯するまでチャンネル - キーを押す

設定 + チャンネル - → 点灯する

3 機器のメーカーコード（4桁）を数字キーを押して入力する

1 2 3
4 5 6
7 8 9
0

消える

正しくプリセットされると、送信インジケータが消えます。（点滅して消えたときは正しくプリセットされていません。）メーカーコードについては29ページをご覧ください。

4 電源キーを押して、コードをプリセットした機器の電源を入/切し、正しくプリセットされたことを確認する

！ ご注意 ！
リモコン切替キーの「その他」はマニュアルプリセットでは使えません。27ページをご覧ください。

テレビ、ビデオをリモコンで操作する

オートプリセットのしかた



1 リモコンで操作したい機器（テレビまたはビデオデッキ）の電源を入れる

2 オートプリセットするリモコン切換キー（テレビのとき：テレビ、ビデオデッキのとき：ビデオ、ケーブルテレビなど：その他）を押す

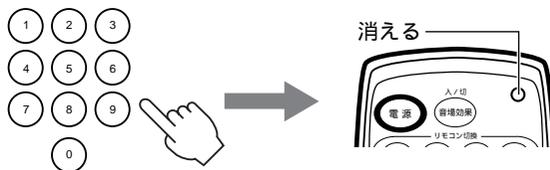


S70キーには本機を操作するための信号がすでにプリセットされているので、テレビ、ビデオ、その他キーにのみオートプリセットできます。1つのキーに1つのメーカーコードがオートプリセットできます。

3 設定キーを押しながら送信インジケータが点灯するまでチャンネル - キーを押す



4 手順[2]でテレビを選んだときは「0001」を、ビデオを選んだときは「0002」を、その他を選んだときは「0004」数字キーを押して入力する



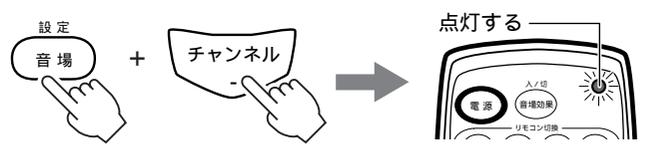
メモ

リモコン切換キーの「その他」は一部のケーブルテレビなどをオートプリセットできますが、プリセットしない場合は「S70」キーと同じはたらきをするので、本機をリモコン操作するための切換キーとしてお使いください。

テレビ、ビデオをリモコンで操作する



5 設定キーを押しながら送信インジケータが点灯するまでチャンネル - キーを押す



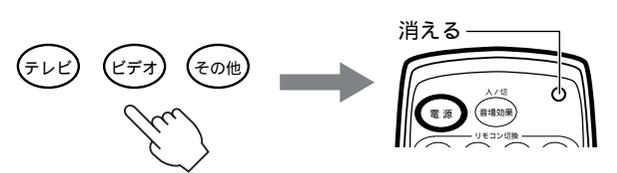
6 リモコンで操作したい機器（手順 **1** で電源を入れた機器）に向け、その機器の電源が切れるまで電源キーを繰り返し押す



リモコン内のメモリーには約200のメーカーコードが記憶されていますが、電源キ - を押すことでこれを順番に呼び出して行くため、最大で200回程度押さなければならない場合があります。

また、機器の電源が切れてから、何回かリモコンの電源キーを余分に押してしまったときは、その回数だけ消音キーを押してください。この操作を行わないと正しいメーカーコードがプリセットされないのをご確認ください。

7 手順 **2** で押したリモコン切換キーをもう一度押す



！ ご注意 ！

手順 **6** で電源キーを200回程度押しても機器の電源が切れず、送信インジケータがゆっくり2回ずつ点滅する場合は、オートプリセットができなかったことを示します。操作したい機器がリモコン対応であるかを確認してください。または、マニュアルでプリセットしてみてください。

正しくオートプリセットされると、送信インジケータが消えます。

テレビ、ビデオをリモコンで操作する

プリセットするときの注意

メーカーコードが正しくプリセットされると、送信インジケータが消えます。

送信インジケータが消えないとき、
または点滅してから消えたとき



手順1から操作をやり直す
操作をやり直すときは、次の点に注意してください。

メーカーコード番号を確かめる。
メーカーコードをプリセットするとき、
リモコン切換キーを正しく選んでいるか、確かめる。
複数のメーカーコードがある場合は順番に入れてみる。
リモコンの電池をいったん取り出し、もういちど入れてから(2分以内に行ってください)操作をやり直す。

メーカーコードをクリアするには

26ページの「マニュアルプリセットのしかた」を行い、手順3で次のコードを入力します。

テレビキーをクリアするには：0000

ビデオキーをクリアするには：0000

その他キーをクリアするには：0000

テレビ、ビデオおよびその他キーすべてをクリアするには：9990

メーカーコード一覧表

下表のメーカー製品であっても形式、年式によって使用できないものがあります。また、他社のメーカーコードをプリセットした場合、機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。

テレビ

日立	0181、0351、0571、0581、0691、0701、0711、0871、0941、0971、1351
三菱	0221、0321、0561、0571、0661、0861、1031、1101、1381
NEC	0241、0351、0361、0661、0971、1031、1111、1321、1711
パナソニック	0101、0191、0251、0751、1041、1311、1371、1431
パイオニア	0511、0551、0871
シャープ	0461、0471、0541、0661、0911、0941、1141
ソニー	0371、0451、0661、0841、0951、1281、1441
東芝	0381、0521、0621、0661、0931、0981、1301
ビクター	0651
ヤマハ	0221、0361、0571、1031、1111、1141、1381

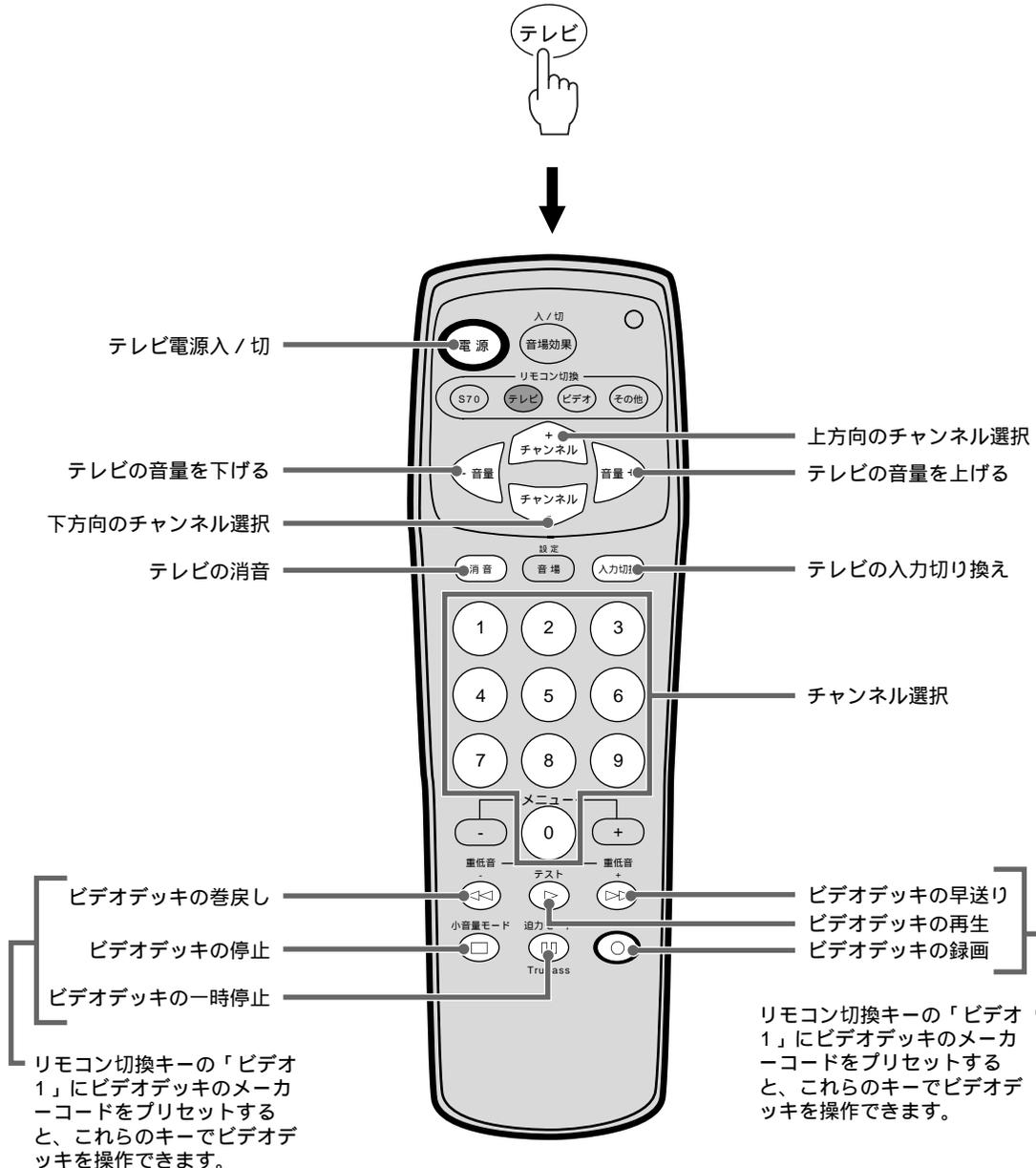
ビデオデッキ

日立	0102、0562、0572、0582、0592、0602、0992
三菱	0452、0462、0542、0762、0952、1082
NEC	0122、0202、0292、0422、0432、0542、0632
パナソニック	0012、0052、0092、0222、0372、0382、0392、0412、0932
サンヨー	0242、0612、0842、0902、0922
シャープ	0402、0472
ソニー	0032、0332、0352、0362、0672、0792、0932
東芝	0062、0302、0342、0522、0682、0712、0762
ビクター	0542、0552
ヤマハ	0202、0632、0762

テレビ、ビデオをリモコンで操作する

テレビを操作する

お使いになるテレビのメーカーコードをリモコン切換キーの「テレビ」にプリセットすると操作できます。



用語解説

エンコード/デコード

信号や情報を加工、圧縮、デジタル化することをエンコードといいます。エンコードすることで、非常に多くの信号や情報量を一枚のCDやDVDなどに収録することができます。

エンコードされた信号はそのままでは音として聞くことができません。これをもとの信号に戻すことをデコードといい、音として聞くことができます。

音場

音は発生源から直接人間の耳に届くだけでなく、壁や天井に反射してやや遅れて到達したり(初期反射音)、複雑に反射を繰り返しながら消えていったりします(後部残響音)。こうしたさまざまな音を聴くことで、人間はその場所の広さや形状を知覚することができます。このような建物などが持つ独自の音響空間を音場と呼びます。

ドルビープロロジック

映画館や劇場では、観客席を取り囲む多くのスピーカによって、シーンに合わせて前後左右に移動する効果音、体全体を包み込むような立体サウンドが楽しめます。こうした臨場感を実現するのがドルビープロロジックです。本来、ドルビープロロジック方式は、左右フロント(2チャンネル)+センター(1チャンネル)+リア(1チャンネル)の合計4チャンネル構成ですが、家庭向けの放送メディアやビデオでも楽しめるよう、ステレオ(2チャンネル)との互換性が保たれ、ステレオ再生が可能なご家庭のAVシステムで手軽に楽しめることが大きな特長となっています。

ドルビーデジタル

「ドルビーデジタル」は、前方3チャンネル、後方2チャンネルの合計5チャンネルに低音専用チャンネル「LFE(ロー・フリークエンス・エフェクト)」を加えた5.1チャンネルをデジタル圧縮技術を用いて完全に独立した音声として再生するものです。従来の「ドルビープロロジック」方式が前方3チャンネル、後方1チャンネルの合計4チャンネルを2チャンネルのステレオ音声にミックスして、マトリクス回路で分離するのに対して、音質に優れ、より立体的なサウンドが再生できます。

バーチャルサラウンド

私たちは、おもに左右の耳に音が届く時間差と音のレベルの違いを感じとることで、音がどの方向から聞こえてくるのかを認識します。バーチャル技術はこの耳の特性を応用したもので、DSP(デジタルサウンドフィールドプロセッサー)を使ったデジタル信号処理と左右のフロントスピーカによって行われますが、リスナーは2つのスピーカとは別の方向にある仮想(バーチャル)スピーカから音が聞こえるように感じます。これにより、あたかもリアスピーカをくわえた5スピーカシステムのようなサラウンド音場を体験できます。

ヤマハDSP(デジタルサウンドフィールドプロセッサー)

ヤマハでは、世界の著名なコンサートホールやオペラハウスなどで、反射音の方向・強さ・帯域特性・遅延時間などの音場情報を実際に測定し、その膨大なデータをROMに蓄積しています。

本機は、音場を再現するヤマハDSP(デジタルサウンドフィールドプロセッサー)を搭載、この音場実測データをもとに作成された音場プログラムを自由に選択し、著名ホールやライブハウスの音場をリスニングルームに再現することができます。

映画製作者の意図するサウンドは、セリフは明瞭にスクリーン上に定位し、効果音はその奥、音楽はさらにその奥に拡がり、そしてサラウンドは視聴者を取り囲んでスクリーンの映像と一体になるようにデザインされています。

ヤマハDSPをAV再生用に進化させたプログラムが「CINEMA DSP」です。映画のサラウンドデコーダーであるドルビープロロジックやドルビーデジタルとヤマハDSPを融合し、映画のサラウンドを最良の状態でデザインするダビングステージ(最終的な映画のサウンドデザインを完成させるファイナルミックス)でのクオリティをご家庭に再現するサラウンド音場です。

CINEMA DSPの音場プログラムでは、左右のフロント、センターチャンネルにもヤマハDSP処理を加えることで、視聴者はセリフの实在感や効果音、音楽の奥行き感とともに、スムーズな音源の移動感とスクリーンまで回り込むサラウンド音場に包まれます。

故障かなと思ったら

次のような場合は故障でないことがありますので、修理やアフターサービスをお申し付けになる前にあらかじめお調べください。

本機を使用中に、強い外来ノイズ(衝撃、過大な静電気、または落雷による電源電圧の異常など)を受けた場合や誤った操作をした場合などに、操作を受けつけなくなるなどの異常が発生することがあります。

このようなときは、いったん電源プラグを抜き、約30秒後に再びつないで操作をやり直してみてください。

どんな状態ですか？	ここをおたしかめください	参照ページ
音が出ない。	電源コードが接続されていますか？ テレビやビデオデッキなどと正しく接続されていますか？ 入力を間違えていませんか？ 消音になっていませんか？	17 14～16 20 21
“ブーン”という雑音が入る。	電源コードを伝わってくる電波が電源周波数によって変調をうけることがあります。 電源差し込みプラグの左右を逆に差しかえてみてください。	17
待機インジケータがゆっくり点滅する。	オートパワーオフになっています。 長時間使用しないときは、主電源を切ってください。	24
チューナやテレビに雑音が入ったり、画像が乱れる。	室内アンテナを使ったチューナやテレビを本機の近くに置いていませんか？屋外アンテナの使用をおすすめします。	-

音場プログラムを使うとき

どんな状態ですか？	ここをおたしかめください	参照ページ
映画のセリフなどが聞こえにくい。	音場プログラムの「コンサート」や「スポーツ」を使っていますか？他のプログラムを選んでください。	22～23

リモコンを使うとき

どんな状態ですか？	ここをおたしかめください	参照ページ
正しく動作しない。	乾電池が消耗していませんか？ 受信部に正しく向けていますか？ 受信部との距離が遠すぎませんか？ または近すぎませんか？ 受信部に強い日光や照明(インバーター蛍光灯など)があたっていませんか？ 他の機器のリモコンを同時に操作していませんか？ 乾電池の⊕ ⊖ が逆になっていませんか？	3 3 3 3 - 3
他の機器を操作できない。	メーカーコードを正しくプリセットしていますか？	26

！ ご注意 ！

別売スーパーファノリアスピーカNX-SW70の修理・アフターサービスの際は、本機とともにお持ち込みください。

仕様

アンプ部

定格出力
フロント 30W + 30W (1kHz、10% THD、6)

S/N比 85dB(テレビ、IHF-A)

全高調波歪率
0.08%(入力：テレビ、1kHz、12.5W / 6)

入力感度 / インピーダンス
テレビ、200mV / 50k

スピーカ

フロントスピーカ
型式 バスレフ型
スピーカ 8cm コーン×2、防磁型
最大許容入力 30W×2
インピーダンス 6

総合

電源/電圧 AC 100V 50/60Hz
消費電力 57W
寸法(幅)×(高さ)×(奥行き) 600×110×243mm
重量 7.0kg
付属品 リモコン×1
単4乾電池×4
オーディオ接続コード(2ピン)3m×1
簡易接続×1
固定テープ×2セット

本機は「高調波ガイドライン」適合品です。

* 「高調波ガイドライン」適合品とは、通産省・資源エネルギー庁の定めた「家電・汎用品高調波抑制対策ガイドライン」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルを考慮して設計・製造した製品です。

* 仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。



これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。
音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

索引

ア

インプットネーム 入力に名前をつける	25
MD プレーヤのつなぎかた	16
LD プレーヤのつなぎかた	15
オートパワーオン/オフの設定	24
音場の切換	23
音量の調節	20
音場プログラム	22

カ

コードのオートプリセット	27
コードのマニュアルプリセット	26
固定テープの使いかた	11

サ

CD プレーヤのつなぎかた	16
シネマ DSP 音場プログラム	22
重低音の調節	21
消音	21
小音量モード	21
スーパーウーファ、リアスピーカの つなぎかた	17
スピーカの配置	10
スルー出力端子	14

タ

高さ調節金具の使いかた	12
DVD プレーヤのつなぎかた	15
ディマー 表示窓の明るさの調節	24
ディレイタイム	25
デジタル入力端子	15、16
テストトーン	18
テレビのつなぎかた	14
電源コードのつなぎかた	17
トゥルーベース 迫力モード	21
ドルビーデジタル、 ドルビープロロジック	22、23

ナ

日本語 / 英語表示の切換	25
入力に名前をつける	25
入力の切換	20

ハ

バーチャルサラウンド	22、23
迫力モード	21
ビデオデッキのつなぎかた	14
ひもの取り付け (落下防止用)	12
表示窓	8
表示窓の明るさの調節	24

マ

メーカーコード	26
メニュー機能の設定	24

ヤ

予備入力端子	16
--------------	----

ラ

リモコンでテレビの操作	30
リモコンでビデオデッキの操作	31

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を未永く、安心してご愛用いただけるためのものです。サービスの依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

保証期間

お買い上げ日より1年間です。

保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

修理料金の仕組み

- 技術料** 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
- 部品代** 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- 出張料** 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年(テープデッキは6年)です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

製品の状態は詳しく

サービスを依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

品番、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。

本機を未永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお勧めします。

摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

ヤマハAV製品に対するお問合せ窓口
AVお客様ご相談センター
TEL (03) 5488 - 5500

ヤマハ電気音響製品サービス拠点

(ヤマハAV製品の故障に関するご相談窓口および修理受付、修理品お持ち込み窓口)

- 北海道 〒064-8543 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
TEL (011) 512 - 6108
- 仙台 〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7
仙台卸商共同配送センター3F
TEL (022) 236 - 0249
- 首都圏 〒211-0025 川崎市中原区木月1184
TEL (044) 434 - 3100
- 浜松 〒435-0048 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内
TEL (053) 465 - 6711
- 名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
TEL (052) 652 - 2230
- 大阪 〒565-0803 吹田市新芦屋下1-16
ヤマハ(株)千里丘センター内
TEL (06) 6877 - 5262
- 広島 〒731-0113 広島市安佐南区西原6-14-14
TEL (082) 874 - 3787
- 四国 〒760-0029 高松市丸亀町8-7 ヤマハミュージック神戸高松店内
TEL (087) 822 - 3045
- 九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL (092) 472 - 2134

愛情点検



永年ご使用の本機の点検を!

こんな症状はありませんか?

電源コード・プラグが異常に熱い。
コゲくさい臭いがする。
電源コードに深いキズか変形がある。
製品に触れるとビリビリと電気を感ずる。
電源を入れても正常に作動しない。
その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中沢町10-1

AV機器事業部

営業部 TEL (053) 460 - 3451

品質保証室 TEL (053) 460 - 3405

住所および電話番号は変更になることがあります。



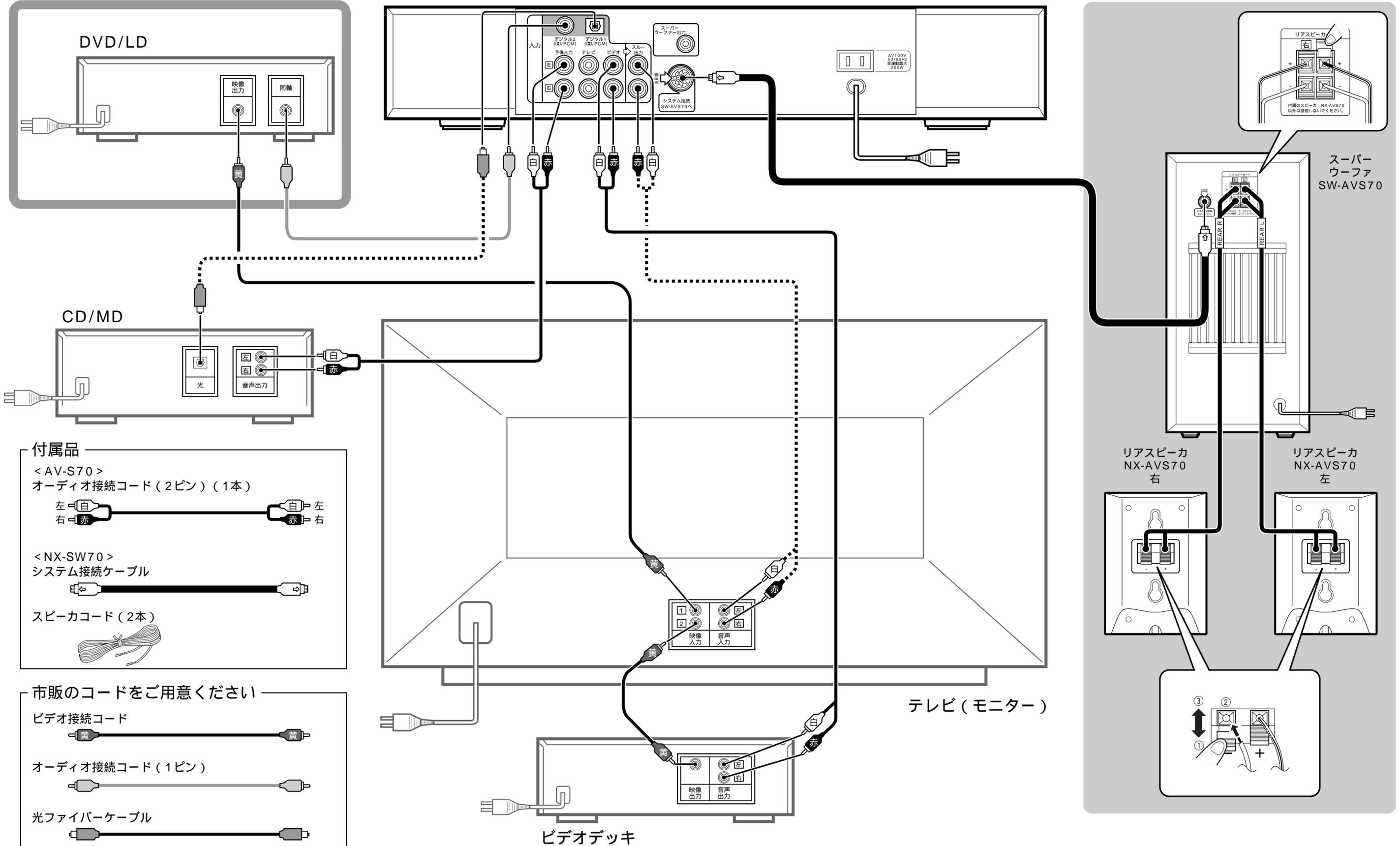
AV-S70

音声出力端子のないテレビ（モニター）とのつなぎかた

デジタル音声を楽しむとき

フロントスピーカ AV-S70

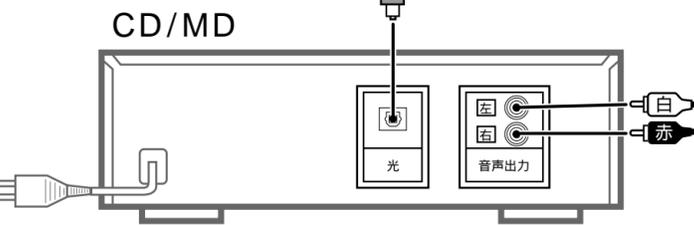
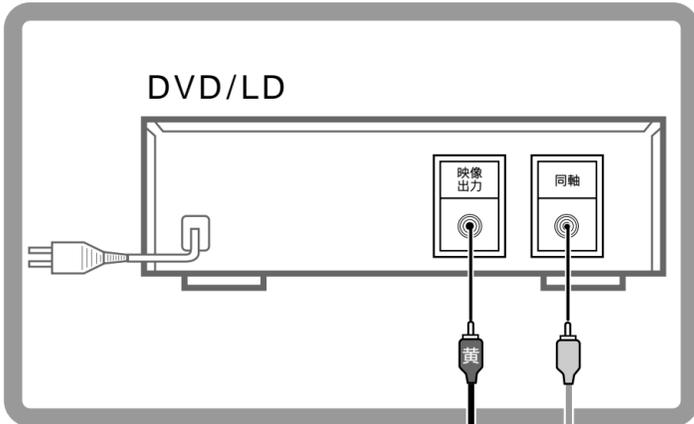
別売ヤマハ スーパーウーファ /
リアスピーカ NX-SW70



AV-S70

音声出力端子のあるテレビ（モニター）とのつなぎかた

デジタル音声を楽しむとき



付属品

< AV-S70 >
オーディオ接続コード（2ピン）（1本）

左=白 右=赤

< NX-SW70 >
システム接続ケーブル

スピーカコード（2本）

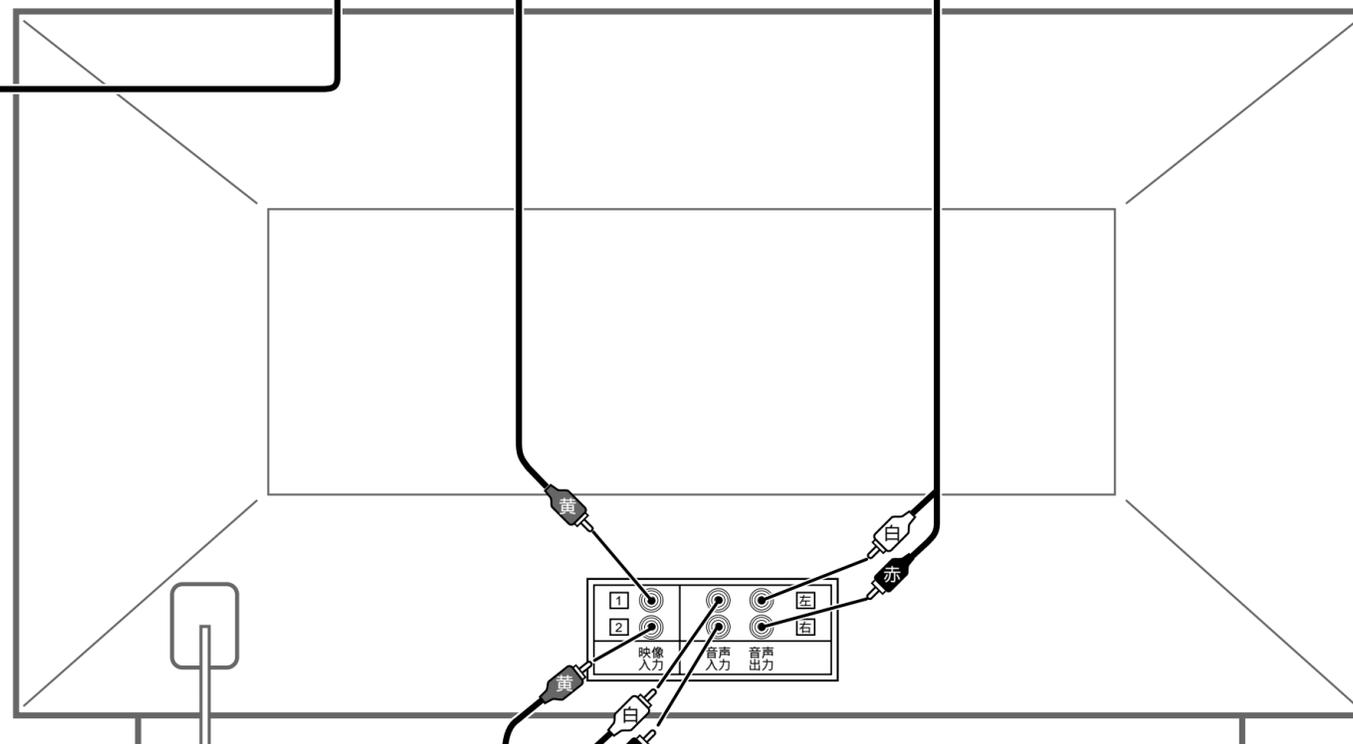
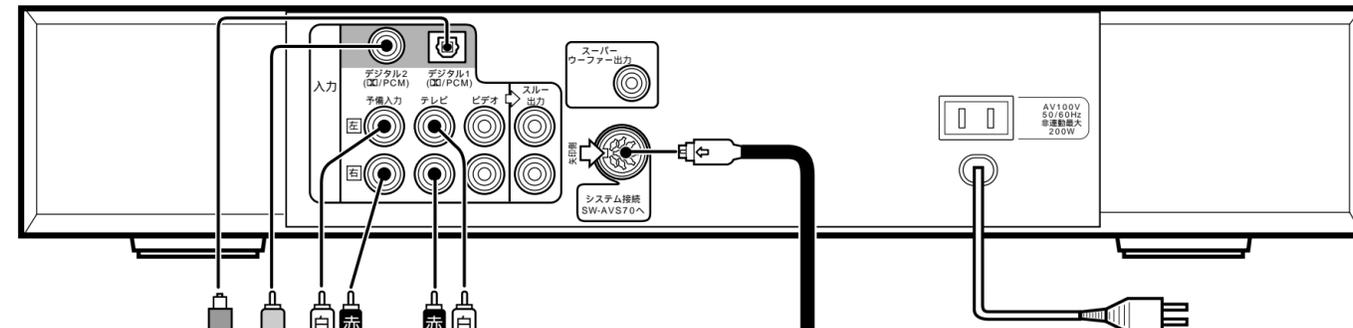
市販のコードをご用意ください

ビデオ接続コード

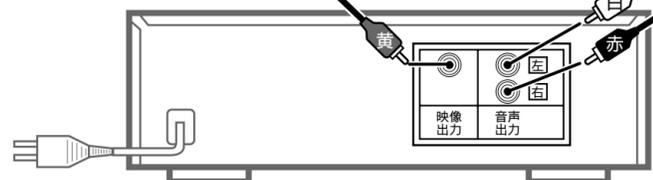
オーディオ接続コード（1ピン）

光ファイバーケーブル

フロントスピーカ AV-S70



テレビ（モニター）



ビデオデッキ

別売ヤマハ スーパーウーファノ
リアスピーカ NX-SW70

